

青森市に多く雪が降る仕組み(イメージ図)



青森県内の主な観測地点の今冬の累積降雪量と平年比

観測地点	降雪量(㎝)	平年比	観測地点	降雪量(㎝)	平年比
青 森	388	172%	鱒ヶ沢	173	134%
弘 前	328	140%	深 浦	116	163%
八 戸	58	166%	碓ヶ関	340	160%
五所川原	260	131%	野辺地	264	191%
十和田	116	97%	酸ヶ湯	875	130%
今 別	158	95%			

※1月10日時点

### 気象予報士・工藤さん指摘

記録的な大雪に見舞われている県内。中でも「世界一の豪雪都市」の異名もある青森市は、10日までの今冬の累積降雪量が388㎝と平年の1.7倍に達している。専門家は、岩木山や八甲田山系に囲まれた特有の地形に加え、地球温暖化や、線状降水帯ならぬ「線状降雪帯」の発達を背景にあると指摘する。

(野村遥)



工藤 淳さん

雪は大気中の水蒸気が凍って生まれる。シベリア(ロシア)から南下する冷たい空気(寒気)が北西の風に乘って移動し、暖かい海水が流れる日本海から立ち上った大量の水蒸気を冷やす

## 山に囲まれた地形も要因

# 温暖化、線状降雪帯関係か

ことで「雪雲」ができる。その雪雲がさらに風に運ばれ、日本列島の山々に行く手を遮られたり、雪雲同士がぶつかったりすると、上昇気流が生まれてさらに発達、大雪になるというメカニズムだ。

同市の民間気象会社「アップルウェザー」の気象予報士・工藤淳さん(75)は長年青森の気象に寄り添ってきた専門家。青森に雪が多く降る要因を尋ねると、岩木山と八甲田山系の存在を真っ先に挙げた。

風が岩木山の北側から吹き込む場合は五所川原、青森方面に、南側から吹き込む場合は弘前、青森方面に多く降る。どちらにせよ、青森に雪が多く積もる構造になっているという。

八甲田山系があるため雪雲は青森を簡単に通り抜けられない上に、岩木山の北から入ってくる雪雲と南から入ってくる雪雲が、ちょ

うぶつかる場所に青森があるのも大きい。

加えて工藤さんは、地球温暖化も影響していると説明する。「海水温と上空の寒気の温度差が大きければ、雪雲が発達しやすい。温暖化で水温が上がるほど寒気との差が開き、大した寒気でもなくても雪雲が発達しやすくなってしまふ」

これらの結果、雨雲が次々と連なって発生する夏の「線状降水帯」の冬バージョンである「線状降雪帯」が生じているという。

「温暖化が進むと雪が少なくなると考えがちだがそうではない。地形と温暖化により、青森市の大雪は今年だけでなく来年、再来年もあり得る」と工藤さん。

「12日から始まる週の中ころには次の寒気が来る見込みで、少なくとも2月いっぱいには油断できない。これまでの感覚で、これくらい降ったら雪も落ち着くだろうという意識は変えた方がいい」と呼びかけている。

2025年 令和7

1月12日(日)

最新ニュースは「Web東奥」へ



©東奥日報社2025  
〒030-0180  
青森市第二問屋町3-1-89

医療法人 雄心会  
**青森新都市病院**  
24時間 365日救急対応

HPはコチラ

新青森駅より徒歩3分  
〒038-0003 青森市石江3丁目1番地  
TEL 017-757-8750 (代表)

**ピックアップ**

六ヶ所村泊地区産のウニを「泊うに」として広く売り出そうと、同村の泊漁協がブランド化に取り組んでいる。今年の

「泊うに」ブランド化へ